

プロ野球の試合前セレモニーを思い浮かべた時、何が頭に浮かぶだろうか？

始球式、花束贈呈などが定番。しかし4月末に行われた神宮球場でのヤクルト対巨人戦でこれまでのセレモニーに勝るとも劣らない球場を一体化させる新たな試みを目の当たりにした。それはヤクルト球団と東京ナンバーワンダンスクラブとも言われる「ELETO KYO」、HANABIプロジェクトの共同企画で球場をダンスホールにしてしまうというもの。

この日の試合はゴールデンウィーク中の本拠地を東京に置くチームの直接対決ということで試合前から家族連れなども含め球場は満員。試合開始はまだかと各々が席につく中、大音量とともに大型ビジョンに映し出されたのは狐面を被ったDJ。そしてグラウンド内には日本舞踊家を核とした和装のダンサーと津軽三味線、尺八奏者。パフォーマンス開始直後、観客はいつもと違う試合前の様子に呆気にとられていた。しかしここでDJが空気

『和製スーパーボウル誕生前夜～老舗野球興行が試みたチャレンジ～』

文 岸本公平 text by Kohei Kishimoto

を一転させた。それはヤクルト戦ではお馴染みの「東京音頭」をDJバージョンで流した瞬間だった。観客が立ち上がり音頭に合わせ踊り始めたのだ。これはこれまでの日本でのスポーツ観戦をスポーツエンターテインメントとして成長させる大きな一歩だ、と強く実感することになった。

全米で1億人以上が視聴し熱狂するNFL「スーパーボウル」。国民的スポーツの決勝で注目されることは勿論だが近年、ハーフタイムショーが瞬間最大視聴率を叩き出している事に注目すべきではないだろうか。それはスポーツ観戦とエンターテインメントショーという全く別物とも考えがちなコンテンツの相性の良さを実証していると考えて間違いない。

2020年の東京五輪を盛り上げようとの様々な試みの中、今回の神宮球場でのチャレンジは日本での新たなスポーツエンターテインメントの誕生と確信をした。



Profile

株式会社NEWTRAL代表取締役
HANABIプロジェクトプロデューサー
福岡県出身。日本大学中退後、テレビ番組制作会社入社。その後ディレクター、プロデューサーなどを経て、30歳の時株式会社NEWTRALを設立。メディアで学んだ企画やプロデュースの視点を生かし、企業のコンサルティングはもとより、地方創生事業やクールジャパン事業に取り組む。